

場所・京都駅前ビル内、割烹。時刻・午後五時から九時。

「明日の合同記者会見を控え、当事者同士が腹藏なく互いの意見を確認し合うため、『隣の墓』作者、まつばら氏の尽力による会談」

田浦（発見の経緯、今日までの経過説明）

正岡（途中）（子規博・森氏関与の疑惑を質す。了解す）

田浦（趣意書に添い説明）「仰臥漫録」を渡すことにした財団判断は法人組織としての検討結果であり、頂いた正岡家要望書以上の措置に踏み切った。なお決して添付されていた稲畑氏の要望書に左右されたものではない。

当原本は国民の宝であり、恒久的に保存可能な公共施設への寄付とすべきである（選定基準を示す）。

正岡 私蔵のつもりはない、選定基準に賛成。ただ一般公開は自分一人で決定出来ないの
今、回答し得ない。

田浦 当初寄付先を国会図書館としたが、本日、再検討の旨同館に伝えた。同時に同館所蔵
（昭和二十六年寄付）の子規遺墨の寄託扱い（財団承諾）を四月以降放棄の申し入れを